

## 期待と信頼に断じて応える！ ～札幌市議会公明党26期がスタート～

札幌市は、市制施行100周年を昨年迎えました。次の100年に向け新たな歩みを開始した本年5月2日、札幌市議会公明党は第26期の新たなスタートを切りました。どこまでも『小さな声を聴く力』と『政策実現力』を発揮し、市民の期待と信頼に応える仕事を断じて遂行してまいります。暮らしを直撃する物価高騰等へのスピード感のある施策展開をはじめ、将来に安心と希望の持てるまちづくりに全力で取り組んでまいります。



## 現場第一で早速スタートダッシュ！

### ～待望のインクルーシブ公園へ～

札幌市議会公明党は5月10日、障がいの有無や年齢にかかわらず誰もが楽しむことができる北海道初となる「インクルーシブ遊具」が設置された「農試公園（札幌市西区）」内の遊具広場を視察しました。

公明党は障がいのある子どもを持つ親から「遊び場がない」等の切実な声を受け、議会質問で訴えインクルーシブ公園の重要性を訴えてきました。14基の遊具のうち7基がインクルーシブ遊具で道内最大級の施設となり、今後は利用実態調査を通し、さらなる波及に挑戦してまいります。



# ～暮らしを守り、魅力あるまちづくりへ～

## 一步踏み出す新たな施策展開へ!

### ～代表質問ダイジェスト～

今回の代表質問には、前川隆史議員（市議会公明党幹事長）が会派を代表して登壇。秋元市長らより新たな施策推進への様々な考えが示されました。課題解決へ大きく一步踏み出す事になりました。



- ◆ 共生社会実現に向け「ユニバーサル推進本部」を設置へ!
- ◆ 脱炭素を推進する「(仮称) 札幌市下水道事業脱炭素構想」を策定!
- ◆ ヒグマ対策強化～偶発的な事故懸念。幅広い分野の構成員による「新たな協議体」を設置!
- ◆ ラピダス半導体PJ好機を逃すな!「組織横断の会議体」新たに設置!
- ◆ ビッグデータ活用でリスク予測。先手対応を可能に「防災DX」推進!
- ◆ 官民連携を飛躍的に!「民間提案を一元的に受け付ける窓口」設置へ!
- ◆ 持続可能なデマンド交通実現へ「利用促進のアイデアや協賛金を提供頂く仕組み」をつくる
- ◆ 「人材サポートセンター」中小企業の人材確保。さらに「シニア人材バンク」を開設し、企業から高齢者をスカウト、高齢者の就労を促進。
- ◆ 認知症施策強化「高齢者支援計画2024」で地域包括ケア体制を充実!
- ◆ 国の日本版CDC と連携し感染症に関する異変を早期に探知可能に。衛生研究所の検査能力向上もはかる!
- ◆ 端末活用で「子どもの心や体の日々の変化が見える化」し、子どものサインを確実に捉え支援を行う取組の検討を進める

## 新年度予算に主張してきた 政策提案が大きく反映!

### ～主な実績ダイジェスト～

#### 子ども子育て応援事業がスタート

保健センターなどが妊婦さんと一緒に不安や疑問を解決して行く伴走型相談支援がスタート。妊娠中から寄り添うことで、子育ての相談やサービスを利用しやすいよう支援。また令和5年1月から札幌市妊娠・出産寄り添い給付金(妊娠分:5万円 出産分:5万円)の支給を行います。



#### 継続した物価高騰対策を推進

公明党は、本年3月、秋元市長に「物価高騰対策の追加策検討を求める緊急要望書」を提出。住民税非課税世帯に3万円、低所得の子育て世帯に児童等1人あたり5万円の支給を行います。さらに、学校給食への負担を軽減、介護施設・障がい事業所・医療機関、保育所等や子ども食堂等に食材購入費用の支援を行います。



#### 町内会活性化に向けた支援が強化(詳細は別紙資料)

町内会への助成制度が大きく拡充、新たな取り組みもスタートします。例えば、住民組織助成金は単位町内会で1世帯あたり130円から260円に。ごみステーション箱型機材への助成金は、助成率が1/2から3/4へ、限度額も5万円から7万5千円に引き上げられます。



# 全力～

# 小さな声を聴く力と政策実現力を発揮!

## ～議会論戦に果敢に挑戦!(議案審査特別委員会より)～



### 真の共生社会の実現を目指して

これまで繰り返し主張してきた共生社会の実現に向けて、ソフト・ハードが連携したバリアフリー化の取組みの重要性を主張。ユニバーサル推進室を設置し、市長を本部長とする推進本部により、具体的な施策が推進されます。 **國安 政典(北区)**



### 障がい者スポーツセンターの設置を推進

障がい者スポーツセンターの設置は、障がい者の健康増進や生きがい、一層の社会参加と共生社会の実現につながるとして進捗状況にあった予算措置を要望。今後はランニングコスト調査や若い方へのニーズ把握を行うことになりました。 **丸山 秀樹(厚別区)**



### 副委員長として議事進行に全力

本定例会の議案は全議員が2つの部に分かれた各委員会にて審議されます。第1部議案審査特別委員会の副委員長として委員長を補佐するとともに、活発な議会論戦が展開される中で円滑な議事進行に努めました。 **好井 七海(豊平区)**



### 障がい者向け文化芸術体験事業について

障がいのある方の自己表現や社会参画の促進、共生社会実現の為、障がいのある方への文化芸術活動を推進してきました。昨年は初めて身体・知的障がい児に向けた音楽ワークショップを開催。今年度は聴覚障がいのある児童も対象にした音楽ワークショップを開催することになりました。 **渡部 泰行(南区)**



### 省エネ家電等キャンペーン事業について

家庭のCO2削減と物価高騰対策として行う省エネ家電等(エアコン・冷蔵庫・エコジョーズ)購入時のキャッシュレスポイントは、誰もが利用しやすいよう書類申請も可能に。ポイントを希望しない場合商品券等での交付も行なうことになりました。 **森山 由美子(西区)**



### イノベーション(技術革新)を促す企業支援について

高齢者の健康低下を防止するため、デジタルを活用した社会参加を、不慣れな方へ配慮・支援をしつつ、推進すること。また、札幌の新たな経済成長のために、地球の持続可能性という視点でイノベーション(技術革新)を促す、企業支援について取り上げました。 **福田 浩太郎(手稲区)**



### トラック運送業～札幌市独自で支援

社会インフラとして重要な役割を担いつつも、深刻な人手不足や2023年に時間外労働規制が厳しくなるトラック運送業界に対し、札幌市独自で支援事業を実施! **前川 隆史(白石区)**



### 丘珠空港における航空機騒音調査が拡充

滑走路の延伸、増便により航空機騒音を懸念する地域の声にお応えするため、増便が見込まれる冬期の騒音調査を新たに行い「空港と周辺地域の調和と共生」の実現に取り組みます。 **小口 智久(東区)**



### 夏の暑さ対策。児童会館等へのエアコン設置へ。

近年の夏季の気温上昇を踏まえ、暑さ対策はとても重要。市内の児童会館は移送式エアコンが設置されていますが、未設置だったミニ児童会館にも今年度中にエアコン設置が進むことになりました。 **竹内 孝代(清田区)**



### 中島公園の魅力アッププランを策定へ

都心部に位置する公園として、そのポテンシャルの高さから独自調査も行うなど、世界中から訪問したいと思われる公園に魅力アップすることを求めてきました。今後、市民や観光客が通年で楽しめる機能を加えるなどの視点で魅力アップが図られます。 **熊谷 誠一(中央区)**

## 医療体制の強化・充実へ

救急患者を受け入れる当番病院等に対する支援の強化や、救急患者をより迅速に搬送するためのシステムを導入するなど救急医療の体制が強化されます。また、札幌市歯科口腔保健推進条例に基づき、私立幼稚園や保育所等でのフッ化物洗口の支援や、在宅の後期高齢者への訪問歯科健診などライフステージに応じた歯科疾患予防対策が推進されます。



## 経済・インフラ対策を推進

燃料費高騰などにより経営がひっ迫する運送事業者に対する、経営効率化・安定化のための本市独自の支援をスタートします。また、札幌観光を魅力的に紹介するコンシェルジュ(案内人)を育成し、旅行者満足度を高めます。さらには、創成川以東地域で、新幹線と市電などをシームレスに連結する新たな公共交通システムの検討がスタートします。



## 冬の暮らしを守る雪対策が強化

令和3年度の大雪対応を踏まえ、今後の大雪対策として示された3つのポイント①排雪作業の前倒しと強化②雪堆積場等の増強③市民・企業との協働の取組。これらを確実に進めるための新年度予算を確保。続く補正予算では、東部水再生プラザにおける融雪施設の整備に向けた実施設計が盛り込まれました。



## デジタル活用の行政サービスが前進

秋には大型ごみ収集のインターネット受け付けがスタート。市民税、固定資産税の口座振替がオンラインで申し込みできるなど、新たな行政サービスが予定されています。また、札幌市議会では第4回定例会からタブレット端末導入による議会のICT化も始まります。



# 人と動物が共生する社会の実現を目指し、 いよいよ待望の「(仮称)動物愛護センター」を 開設します。



この秋、待望の「(仮称)動物愛護センター」が開設されます。公明党はこのセンター設置に向け、常に議会議論をリードしてきました。開設後は動物保護管理機能の強化・拡充が図られるとともに、「どうぶつはじめ講座」や「飼い方セミナー」「子ども向けワークショップ」等、動物愛護の拠点としての役割を担っていきます。6月上旬、整備状況の調査に現地視察をしてきました。



## 調査なくして発言なし! ~現場第一の政策調査へ走る~

### 札幌ドーム内にスケート ボードエリアがオープン

若者の声をカタチに



札幌市にはスケートボード等のアーバンスポーツをする場所が少なく、その確保を求める声がある一方で、危険性や騒音に対する住民から懸念の声もありました。市議会公明党はいち早くこのことを取り上げ、政策調査を重ねながら粘り強く主張。この春、市有施設では第一号となる札幌ドーム内のスケートボードエリア(無料)がオープンいたしました。スタートして1か月、現地を視察し多くの方々に喜ばれている報告を受けております。

